



参議院選挙ご支援ありがとうございました。結果は 自公過半数割れ、危険な潮流台頭 歴史的岐路に 共産党は 消費税減税の実現、排外主義とたたかう

〈参院選の結果と日本共産党の考え〉

- 「岩盤支持層まで離れた結果だ」。自民党幹部の言葉です。昨年の衆院選に続き参院選でも、石破政権の与党は少数に追い込まれました。自民・公明両党は議席を大幅に減らし、非改選と合わせ122議席となり、過半数(125議席)を下まわりました。自民党が政権についている期間に衆参ともに過半数を失うのは1955年の結党以来初めてです。
- 日本共産党は比例2議席(小池晃、白川容子の両氏)、東京選挙区で吉良よし子氏の3選を勝ち取りました。改選7議席を3議席に減らす、悔しい結果となりました。参院での共産党の議席は、非改選4議席と合わせ7議席です。
- 日本共産党は自公を少数に追い込む上で大きな貢献をしました。論戦では、自民党政治に正面から対決し、責任ある対案を示しました。市民と野党の共闘の新たな発展を目指して、全国32ある1人区のうち17選挙区で候補者を一本化し、12選挙区で勝利しました(当県 羽田次郎氏)。
- 一方、自民党の補完勢力や、外国人への差別を売り物にする排外主義・極右勢力が伸長。自民党に助け船を出してきた国民民主党は改選4議席から17議席へと、排外主義をあおる参政党は改選1議席から14議席へと、増やしました。
自公が少数に転落する一方で、危険な潮流が台頭する。日本の政治は大きな歴史的岐路にあり政治の大きな激動が予想されます。
- 日本共産党の田村智子委員長は7月21日の記者会見で、自公が過半数割れしても「単純に国民の要求に応える方向に進んでいくとは言えない」と指摘し、「消費税減税をはじめ、国民切実な要求の実現に向け、国民と一緒にアクションをおこしていく」と表明。排外主義・極右的潮流に正面から対決していく決意を語りました。「日本の政治には、時流に流されず、正論を貫く政党が必要。国民と共に、自民党政治に代わる新しい政治プロセスを前に進める」と語りました。

おか ふもと

〈 歌人 岡 麓 への 私の思い 〉

洪田見八幡神社 夏消えぬ雪のたか山やや遠に
岡 麓 歌碑 しばしば見ともつねあかなくに

アララギ派の歌人 岡 麓は1945年(昭和20年)5月、戦火を逃れて池田町に疎開し、内鎌に住まい(内鎌草庵)をおきました。滞在6年後に妻、愛娘を相次いで失い、自らも同年9月(昭和26年)、75年の生涯を終えました。池田町に住んだのは6年ほどでしたが、多くの困難に遭いながらも短歌の道を究めるとともに、地域の人々に短歌や書道の手ほどきをし、町の文化向上に力を尽くしました。

正岡子規の直弟子であり、アララギ派の重鎮であった岡 麓が池田町に疎開したのは、子規の影響や池田町のアララギ派歌人薄井計雄氏(大雪溪先代社長)の尽力が大きいと言われています。

岡 麓は日本芸術院会員であり、正月に宮中で行われる歌会始召人にもなりました。このようなかけがえのない人物が池田町で暮らし、歌や書を教えたことは町の誇りであり、町の大きな文化遺産として引き継いでいかねばと思っています。その一環として、町制施行110周年・合併70周年記念元気なまちづくり補助金事業を活用し、今年11月に岡 麓遺墨展(町内外にある岡 麓の短歌や書など集めた展覧会)や講演会、年度内での記念誌発行や岡 麓の一生を描いたDVDの作成を計画しています。遺墨展に出展していただける遺墨などがございましたら、ご連絡いただけますようお願い申し上げます。